

いち早く取り組んだメガソーラーで遊休地活用 自然エネを身近なものにする環境活動も

—— 間宮恒行 神奈川県足柄上郡大井町 町長

長らく持て余していた町有地を、
官民の見事なタッグで
有効活用に導く好例が、ここにもあった。
神奈川県足柄上郡大井町に建設された
“エネルギーの地産地消”をテーマに始動した
メガソーラー「きらめきの丘おおい」が、
自治体主導のソーラー発電所の
モデルケースとして注目を集めている。
プロジェクト始動のきっかけから
今後の展望について訊いた。



今回の取材のために、わざわざ間宮町長はじめ、株式会社古川の古川剛士社長、町の生活環境課の皆さんも、お集まりいただいた。



町の自然エネルギーに対する取り組みは、他ならぬ熱心な町民の活動にも支えられている。今回大井町の取り組みを小誌で紹介してくれたのは、地元で環境活動を続けるヒカルデンケンの南雲氏(右)だった。

震災を機に、大きく転換した 遊休地活用プラン

黒岩祐治県知事のリーダーシップのもと、太陽光発電推進に力を入れる神奈川県。県内ですでに多くのメガソーラーが稼働する中、県最西部に位置する足柄上郡大井町山田に建設され、今年3月28日に運転が開始された「きらめきの丘おおい」だ。
6・8haの土地に敷き詰められたソーラーパネルは8640枚。一般家庭600世帯分の電気を賄う2・1MWの発電能力を持つという。この計画が発案されたきっかけは、やはり東日本大震災だった。

大井町の町長である間宮恒行氏

は、当時を振り返る。

「そもそも、企業から譲り受けた町有の土地約7haの活用法については、試行錯誤がありました。町民のためのスポーツ施設を作るといった話もあったんですが、傾斜のある土地で、建設に費用がかかり過ぎると。そんな時に東日本大震災が発生、神奈川県では新しい知事が誕生しました。黒岩新知事は、「かながわソーラープロジェクト」を立ち上げ、自然エネルギー導入を積極的に推進していくという方針を示されました。そんな流れの中にメガソーラー誘致の話があり、町としても再生可能エネルギーに取り組みべきだという想いがありましたので、いち早く手を

上げさせていただきました。県に実際に建設可能かどうかを評価していただきましたが、問題なしとのことでしたので、さっそく、町で事業者を探し始めました。」

神奈川県による最初の調査は、平成23年12月と震災の約9ヶ月後。翌年の4月には、早くも設置運営事業者の公募の準備が開始され、プロジェクトはスピーディに展開していった。

「調査の段階では固定買取制度の実施(※注/平成24年7月1日にスタート)も、買取価格もまだ決まっていませんでしたので、もちろんリスクはありました。ただ、6月には買取価格42円という数字が出まし

たから、プレミア価格ということではありましたが、大いなる可能性を感じまして、早速公募を始めたんです。」

結果、事業主体として決定したのは、小田原市の「株式会社古川」。もともと、地元でプロパンガスを中心に、永らくエネルギー事業を展開してきた同社は、震災前から一般家庭用のソーラー発電システムの販売も手がけていたが「震災を機に、大規模ソーラーを、しかも、地元・神奈川県で」展開したいと考えていた(古川剛士社長談)。

建設にあたっては、地域住民や行政への許可手続きなど苦労も多かったというが、「間宮町長のリー



今回メインでお話いただいたメガソーラー「きらめきの丘おおい」。発電所を大きく2ブロックに分け、真ん中に町有用地が確保された。多額の造成費用が掛かったが、メガソーラー建設に併せて町の道路整備計画も進行している。

ダーシップと、町の生活環境課職員皆さんの熱意に大変助けられました(古川社長談)。

そうして、やっと稼働にこぎ着けた今、「これからが正念場」と間宮町長。

「発電するだけでなく、地域の活性化、環境教育も我々に課された使命です。学校の授業や遠足で発電所を訪ねたりしてもらう、というアイデアもあります。自然エネルギーをもっと身近に感じていただいて、一般家庭にも導入しやすい環境を作っていく。そのあたりに力を入れていきたいと思っています。」

現在、大井町では民間企業により県内最大級のメガソーラー「足柄大井ソーラーウェイ」のプロジェクトも進行中。こちらは50MWと、かなり巨大なものになる予定だ。「土地の利用をどうするかというのは、町の重要な課題です。民間会社

や個人は不要な土地を持っていても構わないのですが、行政はそうはいきません。最大限有効に活用しなければ、町民のみならず納税してくれませんからね。エネルギーの「地産地消」が期待できる太陽光発電は、地元にとっても、土地の有効な活用方法と言えるのではないのでしょうか。」

行政主導型自然エネルギーのモデルケースとして、今後も大井町のプロジェクトに注目していきたい。



間宮恒行氏
TSUNEYUKI MAMIYA

1948年(昭和23年)8月17日生まれ。神奈川県足柄上郡大井町出身。大井町長は4期連続当選。座右の銘は「公平無私」。気さくな語り口で、聞くものをどんどん引き込む、地元愛に満ちた町長。役場の若いスタッフをぐいぐいリードして、新しい事にもどんどんチャレンジするパワフルリーダーだ。

自然エネルギーを愉しむ生活マガジン

FQ JAPAN8月号増刊
[ソーラージャーナル]

SOLAR

JOURNAL



定価
500円
2014 SUMMER

SPECIAL INTERVIEW

里山資本主義

— 元気な日本を
取り戻す —

藻谷浩介

SOLAR CELEBRITY

マツ・デイモン

あなたの知らない

農業

AGRICULTURE

AtoZ

キーワードで考える新・農的生活

植物工場

半農半X

食料自給率

アクアポニックス

農業ムービー

ドームハウス

ソーラーシェアリング

古代農法

F1種

GM種

…and more